

第1回全国都市緑化くまもとフェア基本計画検討委員会 議事録

【日時】	令和元年（2019年）6月10日（月）13:00～		
【場所】	熊本市役所 議会棟2階 予算決算委員会室		
【出席委員】	東京農業大学	名誉教授	蓑茂 壽太郎
	熊本県立大学	客員教授	
	筑波大学 芸術専攻 環境デザイン領域	教授	藤田 直子
	熊本商工会議所	会頭	久我 彰登
		※代理	坂本 浩 専務理事
	熊本経済同友会	代表幹事	甲斐 隆博
		※代理	荒森 靖夫 事務局長
	熊本市中心商店街連合協議会	会長	安田 二郎
	(公社)熊本県観光連盟	会長	矢田 素史
	(一社)日本旅行業協会 (JATA)	委員長	松田 秀一
	九州支部熊本県地区委員会	※代理	森崎 正之 副委員長
	くまもとお城まつり運営委員会	委員	岡村 政志
	熊本市花き振興協議会	会長	村上 昭光
	(一社)熊本市造園建設業協会	会長	吉村 昌洋
	大江小学校	校長	馬場 敬子
	公募委員		桑原 たか子

【議事概要】

1. 開会

大西市長

第1回全国都市緑化くまもとフェア基本計画検討委員会の開催にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。皆さま方、大変ご多忙の中、当委員会にご出席頂きまして、誠にありがとうございました。

また、委嘱状を先ほど渡させて頂きましたけれども、委員に就任頂きましたことに心から感謝を申し上げる次第でございます。このフェアにつきましては、みどり豊かなうるおいのあるまちづくりを目的として、始まったものでございまして、熊本では昭和61年の熊本グリーンピック開催をされて以来36年ぶり2度目の開催となります。

熊本は森の都と言われて、遠くを見れば阿蘇山、金峰山、立田山など、みどりを感じる事が出来ますが、日常生活の身近な所ではいきいきとした緑が不足していると感じておりましたことから、私の2期目のマニフェストの中にもこのフェアの開催誘致を掲げさせて頂いたところでございます。今回の都市緑化フェアを森の都の再生、そして、緑や花、地下水の恵み等に関する様々な事業を通して日常生活に緑が定着していくこと、さらには地域のつながりが生まれ、地域力が向上する契機としたいと考えているところです。

また、今回のフェアでは連携中枢都市圏ということで、熊本市を中心に18の自治体が連携中枢都市圏ということで、圏域を形成しているところで、今回、県内の他の市町村の参画をいただき、そして県内一丸となって一体となって、取組みを進めていくことで、熊本地震からの力強い復興そして、熊本都市圏の地域資源の魅力を発信していく絶好の機会ととらえているところでございます。このような取組みを進めていく上では委員の皆さまや地域の皆さま、花き造園や観光に携わる事業者の皆さまのご協力が欠かせないものと考えております。ぜひ皆さま方におかれましてはなお一層のご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

今回皆様方にご検討お願い致します基本計画につきましてはフェアで発信、そして展開をしていく各事業の方向性そして内容を定める大変重要なものとなっております。皆さま方からの忌憚のないご意見をいただきながら、ぜひ、実りある都市緑化フェアにしていきたいと思っておりますので、どうぞご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

3. 議題

- (1) 全国都市緑化フェアの概要と検討内容について
- (2) 事業内容検討にあたっての観点について

(事務局)

～資料説明：資料1、資料2～

(矢田委員) 質問ですが、事業という目標というのがあると思うんですが、例えばこのフェアには集客目標とかゴールとか、どのへんをもって普及浸透させるのか。ホームページを見て色々見ていましたら中核都市、政令市では100万から150万くらいいけばいいのかなというイメージがありますが、目標という観点で何かございましたら。

(事務局) 今回の基本計画の検討委員会の項目の中で、皆さんと一緒に事業の検討をさせていただきます。事業内容が決まってくると、どれくらいの人に来るんだろうなど見込みもそれに伴って分かってきますので、この基本計画の中で目標入場者数を設定したいと考えています。次回の委員会の時にはお示しをさせていただきたいと考えていますが、ちなみに前回のグリーンピックは36年前ですが125万人の方が来られております。これは1,200円という当時では結構大きなお金であったかと思いますが、125万人来ているので、まだまだこれからではございますが、やはりその程度、以上は念頭においているというところでございます。

(岡村委員) 来場者数もそうですが、今から具体的な魅力的なコンテンツとするため、確認しておきたいことですが、開催目的は市民・県民に向けてなのか、それともやはりイベントを通じて交流事業を拡大していきたいのか、複合的ではあるとは思いますが、どちらに主をおいて、コンテンツをつくっていくのかを確認させて頂ければと思います。

(事務局) 当然ながら都市緑化フェアですので、緑という部分に重点をきちっとおこなうてはいけないと思っておりますが、フェアは毎年各都市で開催されていますが、やはり観光振興に結び付ける話でありますとか、各都市の伝統工芸品であったり、食品の産業でありましたり、違った産業への結びつき繋がりというの、各都市いろんな試行錯誤をされているところでございます。現在、どちらかに力点を置くかというよりも、緑と花をベースとして、その波及が他の産業にも繋がっていくような形での事業の検討をやっていけなかなと考えているところでございます。

(桑原委員) 資料2-1の事業展開の中の花と緑のところですが、壁面緑化が進んでいるように思います。壁面緑化はボリュームもありますし、建築との兼ね合いもありますけれども、今後、地球温暖化にからめて、すでに熊本市では屋上緑化も進められていると思いますけれども、壁面緑化も具体的に検討頂ければと思います。そして、「かたる」の部分でオープンガーデンがありますけれども、ずいぶん前から南阿蘇や阿蘇、菊池の方では地元の婦人会や商工会などでマップを作っておられて、お店に行くとそのマップがあって、身近に感じる事ができるのではと思いました。私は阿蘇の方で園芸教室の講師をしているんですが、その参加者の中にも自分の家をオープンガーデンにしているので、そのために気合を入れていろいろ育てているという話がありましたので、そのマップ作りをテーマごとに地域の方にもまちづくりという形で、地域の方に協力してもらいながら作るというのも面白いなと思いました。もう一つ最後に託麻八十八か所巡りの実行委員の副会長もさせて頂いて、地域の活動もしているんですが、その中で、地域の小中学校に冬の12月頃には、ガイドを小中学生にさせて頂いています。ガイドをするために小中学生が勉強をして、地域の集まった方々に子どもたちがガイドをするという活動が非常に根付いていて、子どもたちが地域を愛するというのと、そして、地域をよく知ってプレゼンテーションをしてもらっています。立田山では市民インストラクターがガイドをしていらっしゃるけれど

も、プロのインストラクターも必要だと思いますが、子どもたちにもそういう機会を与えて頂けると、非常に地域で盛り上がるのではないかなと思いました。

(事務局) ご意見ありがとうございます。まず1つ目の壁面緑化ですが、後程ご説明さしあげますネオグリーンプロジェクトという中で、街なかでの壁面緑化を事業者の方々と一緒に作れないかどうか考えているところでございます。真似したくなるようなぐらいの少しかっこいい壁面緑化とかいろんな所からの視点で作っていききたいと考えているところです。今後アイデア等頂ければと思っています。

また、市民主体の参画につきましてですが、今回委員会を開く前に錦町のオープンガーデンのほうにおじゃましてきて、ものすごい人が来られているみたいですね。1か月くらいで1300人くらい一つのご家庭に来られているみたいでして、1日170人来た時もあるとすごく大変だったとおっしゃっていました。ただすごく皆さんイキイキとされているというか、やはり市民主体の参画の事業はすごくいいなと考えているところでございます。あと、託麻三山等、立田山もそうなんですが、今回の緑化フェアは緑と花を楽しむだけではなくて、公園とか里山とか、そういったところの運営とか活用の仕方というのもきちっとフェアの中で皆さんに知って頂く機会にもしていきたいと考えています。

(叢茂会長) 緑の再生という言葉が最近言われておりますけれども、再生というのは管理であるとか、メンテナンスであるとか全てを含んで言わんとしているようですけど。たぶん今のご指摘のようなことが入っていると思います。他にはありませんか。

(安田委員) 資料の2-5の連携中枢都市圏、連携と書いてありますが、各市町村にサブ会場みたいなものを作られるのか、それとも市町村からメイン会場に何か持って来られるのかそのへんは？

(事務局) 連携中枢都市圏の17市町村の方々、それとともに県内には45の市町村がございます。まだまだ多くの市町村に参画をして頂きたいなと考えてございますが、その方々の会場につきましてはパートナー会場としまして、皆さん来て頂く来場者の方々、県内、県外の方々に広く広報PRを一体となってしていきたいと考えています。どちらかというとなかに三つのメイン会場を立田山、江津湖を含めてしますが、そこに来て頂いた方々にパンフレット等で多くの市町村に回って頂けるような、そういったツーリズムのような展開を、仕組みをつくっていききたいと考えています。

(叢茂会長) 回遊性ですね。ほかにありますか。

(藤田委員) 資料の1-2の左側の基本理念のところの(1)と(3)のところは、説明をいただいた資料の2-2から2-3、2-4の事業イメージのところうまく配置がされていると思います。ただ(2)の熊本地震の支援に対する感謝と復興のメッセージのうち「県内市町村と連携した感謝と復興のメッセージ」及び「グリーンレジリエンス」という部分なんですけども、このあたりは今回お示しいただいた事業イメージが主にフェアの実施期間中にこういうことをやります。ということが主に書かれてご説明があったと思うんですけど、どのような形で復興してきたか、それから「グリーンレジリエンス」に対して熊本市がどのように時間をかけて形にしてきたかというところは、なかなかフェアの期間実施中に集中的に反映させればいいのかというものでもないで、これまでやってこられたこと、それから今やっていること、それから2022年に向けてこれからずっとやっていくことというあたりのことを事業イメージの中にどういうふうに反映させるか、というのが今までの既存の都市緑化フェアと今回の熊本市の都市緑化フェアの差別化を図る重要な部分ではないかなと思います。そのあたりの検討をもう少しされればと思います。都市緑化フェアというイベントに向けて準備することと、その先のことというのも熊本市にとっては、非常に街づくりにとって重要であるというその位置付けと、その発信というものをより明確に打ち出していくことも必要ではないかなと思います。

- (事務局) ご意見ありがとうございます。緑化フェアを今後進めていく中で、委員がおっしゃられます通り、これまでの振り返りをきちっと踏まえた上で、フェアに向けた機運を高めていくような取り組みが必要なのかなと考えています。ひとつ熊本独自の、後程ご説明しますネオグリーンプロジェクトですがこのプロジェクトの中でいかにきちっとやってくれるかがカギになってくるかなと考えています。ただ委員ご指摘の通りグリーンレジリエンスの観点がちょっと薄いかなというのが正直なところですので、次回委員会までに事務局でしっかりと検討してご提示していきたいと思えます。
- (久我委員)
坂本代理 36年前のことを思い出すと、始まった当初は、あまり興味もなく、無理して行かされた記憶があります。メインの巨大な水耕栽培のトマトがあったり、おもしろいのあるなあと噂が広まって行って、みんなが行きたくなるような、そういう会場だったような記憶があります。今回の場合、2年も準備期間があるので、そうとうPRとか進んでいくと思えますので、そういったところの機運醸成と街なか商店街と一緒に経済効果が生まれる様な取組みにしていく必要があると思うので、サービスを提供する側の人達にどれだけこの事業を浸透させていくかそういうことをして、タイアップしていけば効果がでてくるのではと思う。それとまだまだ今日はスタートですが、最終的にこの事業の成功のイメージ、こういうことをしたら成功だという、ある意味KPIみたいな、先ほど入場者数の目標数値の話が出ましたけど、そういった数値化してこの目標に向かって進んでいこうというものを決めればだいぶ具体化が進むんじゃないかなと思えます。
- (事務局) ご意見ありがとうございます。委員ご指摘の通り市民の方々、又各事業所の方々であったり、団体の方々にはいかにこのフェアを少しずつでも浸透できるかが、一つの大きなカギになってくると思えますので、機運が高まっていくような広報戦略も組んでやっていきたいと考えております。数値化の方も出来る限りいろんなところで立てまして、目標が数値化されている方が見える化できますので、そのへんも検討していきたいと考えております。
- (菱茂会長) 量だけでないでしょうね多分ね。市民が満足感をどう得るかとかね。
- (藤田委員) 関連してなんですけれども、近年の開催状況、資料1-1の左側に近年の開催状況等ありますけれども、開催都市によって今回の熊本のように街全体を無料で自由に行き来が出来るといような開催の方法と、2018年の山口フェアはテーマパークのように入場してカウントしてその中で楽しんでもらうということが行われているので、今回の熊本フェアで人数のカウントをどういうふう評価するのか。それから今回は連携中枢都市圏の市町村がありますが、そういうところに行っても都市緑化フェアを楽しんだことになるんじゃないかなと思うので、そのへんのカウントの仕方であるとかや評価の仕方であるとか、そういうところも検討をして、それによる評価、適正な評価というのが今回の課題でもあり、それが目標でもあるのかなと思えます。
- (矢田委員) 資料2-1の事業内容の検討に、6つのカテゴリーがございますが、その中でさっき桑原委員もおっしゃられましたが、教育とか震災支援へのおもてなしが理念にありますので、おもてなしと言うような性格的なものを入れたいかなと思えます。教育は、先ほど経済目標ではありませんが、どれだけ意識を上げるかということで、学校教育にも是非入れて頂きたいですし、私は県外者ですが、熊本は郷土愛の強い方が多いと思えますので、郷土愛の強化に緑化フェアに一翼を担って頂きたいと思えます。高校までに郷土愛の教育が大事だとありますので、義務教育等でやって頂ければよろしいかなと思えます。おもてなしの方ではどういうおもてなしがあるのか、ヨーロッパパドイツに行くときよく花を飾ってらっしゃいますよね家庭で。あれが条例か何かでやっているのか、自発的にやっているのかわかりませんが、ああいう感じで町でお客様をお迎えすれば、その後も観光客の増加を見込めるのかなと思っております。地震の支援へのお礼もそれですべて頂きたいかなと思っております。

(馬場委員) 熊本市はラグビー、女子ハンドボール世界大会で教育の方でも子供たちに世界の平和、国際親善につながるようなことをしています。今回の都市緑化フェアもそれが一つのきっかけとなって、子ども達は新しい時代の担い手なので、子どもの時代にした、例えば中学生と一緒にしたというような経験が大人になっても積極的に環境とか緑化活動に関わるような人になって欲しいという願いを込めて、やっぱり教育の分野でも緑化フェアを教育の材料としてやっていきたいなと私は思っております。

(菘茂会長) 学校との連携は何かイメージはありますか。

(事務局) はい。各開催都市では毎年各小中学校の生徒さんに、例えばプランターを作って頂いて、それを会場の中に飾ってもらったりとか、今開催してます信州フェアでは花壇の苗を子ども達で植えていたりとか、いろんな参画を皆さん考えていらっしゃるの、熊本の方でも、子ども達のたくさんの参画が出来るようにいろんな事業を考えていきたいと思っております。

(菘茂会長) 資料 1-1 の左側の下の方に小学生による都市緑化宣言が載っています。毎年きいているんですけど、すごいんですね、小学生の宣言が心を打つんです。私はいつも涙が出る時がありますけどね。そのことと、今おっしゃったようにプランターを作ることとはちょっと距離がある気がするの。もう少し近づくといいかなという気がしますね。

1、2についてはよろしいでしょうか？それでは、次に移りたいと思っております。

(3) 開催テーマ、シンボルマーク等について

(4) 緑化推進事業：NEO GREEN PROJECT について

お願いします。

3. 議題

(3) 開催テーマ、シンボルマーク等について

(4) 緑化推進事業：NEO GREEN PROJECT について

(事務局)

～資料説明（資料 3・資料 4）～

(菘茂会長) ありがとうございます。
資料 3 の方から内容を協議して参ります。

(岡村委員) 今から、テーマ、シンボルマーク等についてを詰めていくということですがけれども、ここで地元クリエイター集団とあります。この辺の選定方法や基準みたいなものがありましたら教えてください。

(事務局) 地元クリエイター集団、それからアドバイザーについては、今検討中でして、アドバイザーの方々に相談をしながら決定していきたいと考えています。まだ設定の基準等も今は無い状況ですがけれども、今後話し合いをしながら、どなたにお願いするのは決定していきたいと考えています。

(菘茂会長) 今日の段階は、決め方についてご意見を頂きたいということですね。

(事務局) まず事務局でどなたにするかを検討致しまして、その方に当たらせていただきたいと思いますと考えております。

(菘茂会長) 決め方の手順を、今日は皆さんにお諮りしたいということですね。

- (事務局) はい、よろしくお願い致します。
- (岡村委員) ということは、地元クリエイターという前段階の広報・演出アドバイザーの選定をまず行わないといけないということですよ。
- (事務局) はい、そのようになります。
- (岡村委員) 広報アドバイザーの方にどのような方がいいかを相談して決められるという認識でよろしいでしょうか？
- (事務局) はい、その通りでございます。
- (安田委員) キャラクターが決まりましたら、タオルとか缶バッジの製作もされるのでしょうか？
- (事務局) いろんなテーマや愛称、シンボルマーク、キャラクター等ございますけれども、これらが策定されましたら、いろんなPRグッズ、パンフレットであるとかを作りまして配布を行いまして機運醸成につなげていきたいと考えております。
- (桑原委員) 私もアドバイザーやクリエイターの所が気になっていました。下の方に市内の大学生等との意見交換とありますが、なぜ大学生なのかなというのと。以前ですけれども、県外にいる従妹がNHKの「ようこそ先生、課外授業」に出るために地元に戻って来た時に、地元の小学生に対してレクチャーをしていろいろ引き出していくという番組ですけれども、小学生の感性とか発想力にとても感動したという話をしていました。このクリエイターの中に、今後、職業としてあるいは今後のライフサイクルとして緑や環境について考えていくという子どもたちも多いと思いますので、大学生に限らずもう少し幅広く意見交換のメンバーを考えて頂けたらと思いました。以上です。
- (事務局) ご意見ありがとうございます。特段大学生にこだわっているわけではございませんでして、これからアドバイザーの方々とか、クリエイターの方々とも話し合いをしまして、いろんな幅広い小学生であるとか中学生も含めましていろんな方々の意見を聴いていきたいと考えています。ありがとうございます。
- (藤田委員) 今回はテーマと愛称、シンボルマーク、イメージキャラクターというところでありまして、全体的な広報とか演出の戦略を長期的にフェアが開催されるまで、全般的に部分を担う方がアドバイザーというふうに考えていいのでしょうか。それとも、テーマ、愛称、シンボルマーク、イメージキャラクターのための集まりになるのか、それともそれを含めた全体を最後まで面倒をみて打ち出していくというアドバイザー及びクリエイター集団という位置付けになるのか。どちらを想定していらっしゃるのか教えてください。
- (事務局) 開催テーマ、シンボルマーク等につきましてもアドバイザーにして頂きますけれども、事務局としましては今後のフェアの展開であるとか、事業の中味についてもアドバイザーの役割を担って頂きたいというふうに考えております。
- (藤田委員) そうすると、非常にこのアドバイザーを誰にするのかというのが、今回の都市緑化フェアの全体を成功させるか失敗させるか、とても重要な部分になると思うんですけれども。この人選をどうするのかということはどうまでお考えなのか、もう一度教えてください。
- (事務局) アドバイザーにつきましてもの選定についてでございますが、ここに記載してございます通り、1人の方に演出・広報等をお願いしていく中では、その方のアイデア力や情報発信力がすごく必要などであると思っておりますし、私たちの考えとします

と、やはり熊本ゆかりの方にやって頂きたいというところ考えておまして、今まだその段階というところでもあります。

(藤田委員) 想定してされる方がぼんやりいらっしゃるのですか？

(事務局) まだありませんが、これからお話の方をさせて頂きたいと思っております。今回、広報、演出に関しましては熊本にゆかりのあるアドバイザーであったり、熊本の若手のクリエイター、デザイナーの方々に活躍をして頂く機会を皆さんに提供していきたい。それで、みんなで考えたものを広報のツールとして発信していく事が一番重要なと考えているところでございます。

(菱茂会長) これは広報演出のアドバイザーでしょ？あくまでも。だからテーマとかは、むしろこの委員会がきちんと発信をしなくてはいけない。そういうことですね。

(事務局) そうでございます。

(菱茂会長) 地元のクリエイターに潜在力があると思うので、それをどうしても使いたいということが前提にはあると。他によろしいですか？

(岡村委員) 地元ゆかりのアドバイザーの方が総合的に判断して、それを熊本県内在住のクリエイターに、その繋がりがあるのかというのは、定かではないですけども、その潜在能力のあるクリエイターとどう繋ぐのか、熊本ゆかりのアドバイザーという方が、東京にいらっしゃるか方なのかどうか分かりませんが、そこと地元のクリエイターをどういうふうに繋ぐのか、もともと繋がりのある人に決め打ちでふるのか、コンペのような形で地元クリエイターがあげてきたものをアドバイザーが選定して、そこで集団をつくるのか、そういうイメージも今のところないんですか？

(事務局) 先程のご質問の通り、誰を選ぶのかという選び方についてはまだぼやっとしたところでもあります。ただ、考え方としますと多くの方々に、多くのクリエイターであったり、多くのデザイナーであったり、そういった方々に参画してもらう。その事が一番重要なと考えております。

(菱茂会長) 昔、名古屋で世界デザイン展というのでデザイン会議をやったんです。それにより名古屋の街は大きく変わったんです。デザイン会議をやったことによってだいぶ変わったんですね。そういった意味では緑化フェアは、緑を増やすだけでなく、デザイン性を高めるといふそういうのにも寄与しないといけないと思いますので。上手くいくことを願いますけどね。広報や演出というのは、委員会で合意性で決められるものではないので、これは何か一人のキャラクターを生んだ人に旗を振ったもらった方がいいかなというのがこの提案の趣旨だと思いますけどね。次回ぐらいまでに少し見えてくるんでしょう？

(事務局) 次回までにどういった方で、どういった若手の方々に参画して頂くか、委員会も3回でというふうに考えておりますので、大変今日は申し訳ございませんが、次回にお示ししたいと考えております。よろしくお願い致します。

(菱茂会長) 乞うご期待を。他には何かございませんか？

それでは、もう一つの議題の方に入りましょうか。

私から一ついいでしょうか？この地域の緑をリレーするというので、熊本は公園愛護会が非常にしっかりしていますよね。毎年集まりをやっていますよね？あれが熊本地震で思いもなかった効果があったと思います。公園の車止めのカギを愛護団体の人

が持っていたから、すぐ開けてくれて使えたと。言ってみれば地域が公園を管理している。そういったところを、地震からの復興だとかグリーンレジリエンスに繋がっていくと思いますね。もともと公園愛護会の原点は道路愛護会なんです。関東大震災の後に横浜で沢山道路をつくったんです。ところがなかなか清掃ができない。だから道路毎に愛護会を作ったんですね。それを真似して公園も愛護会を作ったんです。たぶん、もう一度そういう時代が来ているんだということですね。日本という社会に。全部、今まで行政が担ってやっていたんだけど、行政はもう担えないから少し市民にやってもらわなければいけないと。そういったものの出発点に今回の緑化フェアがなったならば意味があると思う。既存の下の方の緑化活動を活かすとか、これで緑を再生するとか、愛護会も再生するというものを考えてもらったらいいなと思いながら聞いていました。

(村上委員) 先ほど馬場先生もおっしゃったように、子どもからおばちゃん、そして高校生まで、緑化推進事業だけではなくて、子どもたちが長く感動してこのフェアを糧にしてもらおう、私も学校におりましたから、子どもたちの授業をやっているといろんな父の日の花、命日等やっていて、そういったところを伸ばしていく、そういったことが将来の子どもたちの役に立つ、成長に繋がっていくと私は思います。今回はいろんな形でイベントが計画されますけれども、非常にこれは大変な事業だと思います。いろいろな花を飾ったりする場合に、必要なのは花であるわけですので、花の調達、そういった流れをもし分かるのであれば、私たちが協力すると思いますので、そういったお話を頂ければと思います。

(事務局) 植物、花について、緑もそうなのですが、今回策定する基本計画の中で事業の内容を検討をしていきます。この基本計画策定後すぐに植物の調達計画というのを策定しようと考えています。この基本計画の事業を睨みながら少しずつ、花き振興協議会の皆さん方にヒアリングをさせて頂こうかなと思っておりますが、しっかりした植物調達計画につきましては、この基本計画策定後すぐに入っていきたいと。そこは、業界の方々と色々意見交換をさせて頂きながら、進めさせて頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。

(桑原委員) 介護施設や社協さんで園芸教室をしています。阿蘇は震災で会場や温室が流されてしまって、社協さんもなくなってしまって、しばらく園芸教室は中止にしましょうかのご提案したんですけれども、会員の方々からは、お花は癒されるからとにかくお花教室は早く開始して欲しいと言われて、会場を移して、参加される方々の家も半分なかったり、庭も全部なくされたりしているんですけれども、お花の教室を非常に楽しみにして来られるとお見受けしました。先ほど基本計画でも地震への支援と感謝のメッセージという部分でも、お花を使ったイベントというのは非常に心が癒されるんだと思いますので、感謝の心のメッセージに繋がっていければというふうに思いました。

(馬場委員) 地域の緑のことや学校の授業のためになればいいなと思って聞いていたんですけれども、一番いけないのは地域の方や子どもたちがやらされ感がある活動になっては何もならないと思うので。令和4年に6年生になる子どもたちは今3年生。今6年生の子どもたちは中学3年生なんですけど、今からの動機付けというか。それが前年度からすると、させられたという感じになるので、そこはうまくモチベーションを上げられたらいいなと思いました。先ほど、絶対無理だと思って言わなかったんですけれども、この前オリンピックのマスコットを決める時に小学生の投票で決まりましたよね。その時すぐ学校は盛り上がったんですよ。自分たちが選んだのがなったよとか。多分、今から選んだりするのは無理かもしれませんが、そういうシンボルマークとかキャラクターとか子供たちはとても好きなので、そういうキャラクターが子どもたちにはまれば子どもたちは物を買うし、みんなお揃いのものもったりしますよね。だから、始まる少し前から盛り上がるのではなくて、キャラクターが出来上がったところから小学生とジワジワやっていくと、それがお母さんお父さんたちの心に火が

ついて、地域にも火がついて、やらされ感ではなくて、フェアを楽しもうという事に
つながるのではないかなと思いました。

(事務局) 地域や子ども達がモチベーションを上げていくような取り組みということで、先生方
にもご相談させていただきたいと考えております。こういった形で取り組みができる
のか研究させて頂きたいと思います。よろしく願いいたします。

(吉村委員) 小さい子からお年寄りの方まで花を好きになってもらう、興味を持ってもらうのが一
番大事じゃないかなと思います。一過性で終わらないためには、思うのが、市の花電
車とかイベントがある時にはされていますが、あれも年に数回しかないんですけれ
ども、例えば季節感のある春夏秋冬とか、毎月一回電車で季節の花がちょっとあると
か、お金を掛けなくてもいいので、ちょっとした花が飾ってあるとか、そういうのを
目にするような場所だとかがあれば、皆さん興味を持ってくれるのではないかなとい
うふうに思いました。

(岡村委員) 今、熊本の民間で頑張ってる場所が多くて、緑地に親しむイベントを江津
湖であれば「江津湖リビング」とかですね白川の左岸の方では「夜市」とかですね、
様々な民間の団体さんが、人の親しみであったりとか、地域づくりの一環としてされ
ています。まちづくりセンターから今、情報を集約しているとおっしゃっていました
けれども、民間団体さんとの連携というのは、既存でそういう活動をされているとこ
ろとの連携というのはいかがお考えですか？

(事務局) ありがとうございます。今おっしゃって頂きました民間団体さんも含めまして、企業
さんもそのような取り組みをされているところもございます。そういった方々とも、
当然自治会の方でもされていますので、情報を共有しながら進めて参りたいと思っ
ています。

(藤田委員) 岡村さんのご意見にすごく賛同したんですけれども、自治体から何かをやろうとな
るとそれに関連するような公共施設であったりとか、そういうところへのヒアリングだ
ったりするんですが、岡村さんがおっしゃったような民間で独自で行われていること
に対して全部「ネオグリーンプロジェクト」という名前を付けて、官民一体となっ
て、緑や水やそういうところに関係するイベントであったり、何か関連するものに
は、ことごとく「ネオグリーンプロジェクト」という名前を付けて、それでいろんな
人が、いろんな主体が「ネオグリーンプロジェクト」という名称を目にして、それが
都市緑化フェアと関連しているだと、刷り込みのように、いろいろなところでこの
「ネオグリーンプロジェクト」というのを、あまり制限をかけずにどんどん広めてい
く事が、結果的に都市緑化フェアに対する市民の理解であるとか、共感を得ること
になると思うので、せっかくこの名前を付けたのでこれを上手く活用するという事も考
えていかれるといいのではないかなと思います。

(事務局) ありがとうございます。「ネオグリーンプロジェクト」の名称もいいので、こうい
ったものをどんどん広げていって、緑化フェア自体が盛り上がっていくのもそうなん
ですけれども、その後どういう展開になっていくかというところが重要なところだと思
っておりますので、そういったものも踏まえて考えていきたいと思っております。

(葦茂会長) そういう事をやりたい人はたくさんいるから、あまり限定しないで広くして、勝手に
緑化フェアみたいなのもいいと思うんですけどね。よろしいでしょうか。5番につ
いて何かありますか。

3. 議題

(5) その他

- (事務局) 事務局から1つだけ報告をさせて下さい。今後の委員会のスケジュールですが、資料1-2をご覧ください。1-2の右側の一番下に検討スケジュールを記載しております。この中に第2回の委員会、第3回の委員会、大変申し訳ございませんが、事務局の方で日程の設定をさせて頂きました。第2回目が8月28日です。第3回が11月19日でございます。大変皆さんお忙しい折と存じますが、日程の確保の程をよろしくお願い致します。開催時間は午後で考えております。そちらにつきましては、改めて通知させて頂きたいと思っております。よろしく申し上げます。
- (菘茂会長) 全体に関して何かございませんか？よろしいでしょうか？
- (矢田委員) さっきの「ネオグリーンプロジェクト」ですが、進行中の事業もやっております、使用許諾とかそういうものはありますか？
- (事務局) まだ、使用許諾とかいうものはございませんが、今後どういうふうな使い方をしていくかの部分も考えさせて頂きたいと思っております。特に矢田委員のところも「ネオグリーンプロジェクト」に関連するところだと思いますので、よろしくお願い致します。
- (菘茂会長) 是非、検討して下さい。熊本には「くまモン」といういい例がありますから。よろしいでしょうか？
それでは、今日は初めての委員会で行いましたけれども、緑化フェアについてご理解頂いて、基本計画の事項についてもご意見を頂きました。これから計画をどういうふうに整理していくかについてご議論頂きました。ありがとうございました。第2回に向けて徹底的に準備をして下さい。事務局も頑張っていますから、是非皆さんからお気づきの点を電話、メール等でも結構ですので、ご提案頂ければ幸いです。
今日は、どうもありがとうございました。

4. 閉会